

長野市善光寺表参道地区及び松代地区における
全国路地サミット開催を契機とした
まちづくり活動の支援報告書

平成21年4月

全国路地のまち連絡協議会

長野市善光寺表参道地区及び松代地区における

全国路地サミット開催を契機としたまちづくり活動の支援 報告書

もくじ

序章 活動の目的-----	1
1．活動の背景 1	
2．活動の目的 1	
3．活動の内容 1	
4．活動の実施体制と日程 2	
第 章 善光寺表参道地区-----	5
1．全国路地のまち連絡協議会会員等からの提案 5	
2．ワークショップの実施 1 4	
第 章 松代地区-----	2 6
1．全国路地のまち連絡協議会会員等からの提案 2 6	
2．ワークショップの実施 3 3	
第 章 まとめ-----	4 2
1．善光寺表参道地区における路地を活かしたまち歩き観光の推進 4 2	
2．松代地区における路地を含めたまち歩き資源の発掘活用 4 4	
3．今後の活動展開 4 6	
資料編-----	4 9
1．活動の経過 4 9	

序章 活動の目的

1. 活動の背景

全国路地のまち連絡協議会は、平成 16 年 8 月に路地をいかしたまちづくりに関心を持つ関連団体及び個人が、その活動を活性化させるための情報交流、路地に関する啓発普及活動を行うために結成された団体である。

結成以来、インターネットによる路地のまちづくりに関する情報提供、関係者の交流や啓発普及のための全国路地サミットの開催、路地園芸の調査・活動、路地百選の収集などを実施してきた。また、毎年開催している全国路地サミットを通じて、路地を活かしたまちづくり情報の蓄積や、まちづくりに携わる様々な主体とのネットワークを形成してきている。

このような活動経緯の中、昨年 10 月 25 日と 26 日の両日、「全国路地サミット 2008 IN 長野」を開催した。25 日は善光寺表参道地区でまち歩きを実施し、その後善光寺大本願明照殿にて路地サミットフォーラムを開催し、基調講演、全国の活動報告、パネルディスカッションを行った。26 日は、松代地区においてまち歩き・意見交換会を行うとともに、信州松代まるごとミュージアム 2008 を視察した。

2. 活動の目的

このような活動背景を踏まえ本活動は、長野市善光寺表参道地区と長野市松代地区において、路地サミットにおける議論や路地サミット後に寄せられている参加者からの提言などを両地区にフィードバックし、今後のまちづくりに活かしていくことをめざす。

また、この活動を通じて、サミット開催において地元側の実行委員会を構成した様々なまちづくり主体のネットワークを一層活性化し、地域における様々なまちづくり主体の連携によるまちづくりの総合化とまちづくり推進モデルの構築をめざすものである。

3. 活動の内容

(1) 長野市善光寺表参道地区における路地を活かしたまち歩き観光の推進支援

長野市善光寺には、年間 700 万人もの観光客が来訪しているが、そのほとんどが善光寺とその参道(土産物店街)のみに集中しており、市内へは流れ得ない構造となっている。

このため、全国路地サミットにおいて実施したまち歩きとこれに関する意見交換を整理し、さらに全国路地のまち連絡協議会会員から提言等を加え、地元まちづくり主体と議論して、善光寺表参道地区におけるまち歩き観光の推進方策を検討する。

(2) 長野市松代地区における路地を含めたまち歩き資源の発掘活用支援

松代地区の路地サミットは、まち歩きとその中における意見交換の実施に終わり、特段の議論をしていない。

このため、当日参加した全国路地のまち連絡協議会会員と地元まちづくり主体と意見交換を行い、松代地区の街並み観光資源の整理及び発掘を行い、そのネットワークを

形成して点から線へ、線から面への展開を図る方策を検討する(松代地区の観光は現在、点が主体の施設観光となっているため、施設同士をつなぐ線的観光、さらには松代の街並みや日常生活の演出を含めた面的観光へと展開することが望まれる)。

また、これら観光資源と松代地区で展開されている文化的活動とのマッチングを図るなど、街並み観光に厚みを持たせる方策を検討する。

さらに、善光寺表参道地区との連携による滞在型観光地を形成する方策を検討する。

(3) 今後の活動展開に関する支援

全国路地サミットにおいて、長野県下の路地を繋ぎまるごと観光化するという「信州路地の旅」や「長野路地博」を行ったらどうかという提言があった。

このため、地元の実行委員会を組織した各まちづくり主体と意見交換を行い、県下への展開について検討する。

4. 活動の実施体制と日程

(1) 活動実施体制

本活動の実施体制は以下のとおりである。

地域等	対象
全国路地のまち連絡協議会	世話人会及び会員有志
長野市全域	NPO 長野都市経営研究所・ISHIKAWA 地域文化企画室
善光寺表参道地区	善光寺世界遺産登録をすすめる会、長野郷土史研究会、歴史の町長野を紡ぐ会、ながのまちづくりカフェ、ながのクラッセ、ナノグラフィカ
松代地区	NPO 夢空間松代のまちと心を育てる会、エコーロード・まつしろ倶楽部
その他一般参加	長野市を中心として公募

(2)活動の日程

活動の日程は下表のとおりであった。

4日 (土)	11時	【内容】善光寺本堂における「前立本尊御遷座式」の準備を見学 【会場】善光寺本堂
	12時	【内容】善光寺表参道地区を移動しながら再確認
	14時	【内容】『路地からまちづくり・まち歩きへの提案～全国路地サミットその後』 【会場】長野市生涯学習センター・第3学習室 ～16時30分頃まで
	17時30分	【内容】交流会
5日 (日)	10時	【内容】松代八十二銀行前から会場まで松代の街並みを再確認
	10時 30分	【内容】『松代の路地を活かしたまちづくり～全国路地サミットその後』 【会場】山寺常山邸 ～12時30分頃まで

アフター・路地サミット長野の路地とまちを語る会ご案内



アフター・路地サミット
長野の路地とまちを語る会
ご案内

昨年10月に開催した「全国路地サミット2008 善光寺～松代」も、おかげさまで全国からの参加者を迎え、充実した2日間のプログラムを終了いたしました。

今回、このサミットの仕掛け人である「全国路地のまち協議会」からの希望もあり、地元との懇談会を下記のように企画しました。東京などから参加予定は10人で、それぞれ都市計画やまちづくりの専門家たちです。長野への感想や提言も含めて、今年のサミットでは、語れなかった話が出ると思います。

御開催開始のお忙しい時期とも思いますが、お話しあわせてご参加ください。

記

●「路地からのまちづくり・まち歩きへの提案～全国路地サミットその後」

●交流会

日時 4月4日(土) 18:00～

会場 ごんべい(長野市西鶴賀1473 TEL026-233-1188)

会費 3,400円(飲み物別)

●「松代の路地を活かしたまちづくり～全国路地サミットその後」

日時 4月5日(日) 10:30～12:30

会場 山寺常山邸(松代竹山町)

【問い合わせ先】

ISHIKAWA地域文化企画室 TEL 026-269-6161 FAX 026-269-6166

4月5日の松代に関するお問い合わせは

NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会 TEL& FAX026-278-1277

*参加を4月2日までに、お知らせください。

第 章 善光寺表参道地区

1. 全国路地のまち連絡協議会会員等からの提案

全国路地サミット 2008IN長野参加者への事前アンケートや参加者から寄せられた提
言等を以下にまとめる。

属性	提案事項
長野市在住 コンサルタント 女性	<p>大門あたりから善光寺までの通りは、観光地としてきれいに整備されてきているので訪れる人にある程度満足感を与えているように思う。善光寺の参道をはさんで両脇にある院、坊が並ぶ通りは静かな佇いで寺の町ならではの景色。</p> <p>日本最古の仏像といわれている秘仏をよする善光寺の歴史や、尊ばれてきた成り立ちなどを紹介する、資料館などあったらいいように思うが、どうだろうか。</p> <p>歴史の蓄積がたくさん残っているにもかかわらず、権堂アーケードの低迷とセントラルスクエアの駐車場としてだけの使い方に、現在の長野市の狭量を感じてします。</p> <p>また、表参道にベンチなどお休み処をたくさん設けたらいいなとも思います。</p>
長野市在住 コンサルタント 女性	<p>善光寺は中心線である表参道や仲見世の通りよりも、一本外側の院坊の通りその外側の西の門の通り、善光寺からかつての花街であった権堂に降りる東之門町(かつての間屋街)のあたりに残る蔵造りの家に魅力があると思います。</p> <p>善光寺の裏側も実は面白いエリアです。かつては料亭や旅館などもありました。現在は住宅街になっています。</p>
関東地方在住 都市計画コン サルタント 男性	<p>善光寺周辺部を歩いた。アップダウンがあるため、景観の変化が楽しめるコースであった。あちこちにお地蔵さまがあったり、仏教文化の中にあるというような気がしてくる特異性を持つ路地という感想である。これをいかす方向として次のようなことが考えられる。</p> <p>地蔵巡りとか仏教とか、その他テーマをかかげて、中にはクイズ形式もあるなどのコースづくりをする。 After ZENKOUJI として善光寺参りとのセットになるのでは。</p> <p>歴史的な街の推移が分かる地図を用意する。古くからの道が分かるのも楽しい。路地は歴史の道でもあるので。</p> <p>蕎麦とか酒とか簡単な飲食が楽しめる場を中に入れ込んだコース設定もあると良い。京都はこの手のやり口がうまい。</p> 

属性	提案事項
関東地方在住 都市計画コン サルタント 男性	<p>善光寺とその周辺の路地の関係が分かるような地図があるといいかも</p> <p>善光寺表参道地区としての空間の広がりがあると歩きやすい</p> <p>ポイント間の移動からの脱却</p> <p>路地の中でのポイントや特徴が分かりやすくなるとよい</p> <p>看板の設置？</p> <p>善光寺を中心にするか善光寺と両立させるかコンセプトが必要</p> <p>片足でない地域づくり</p> <p>飲食店以外の生活必需品を扱う店がない</p> <p>生活感がやや少ない</p> <p>寺社間の空間のつながりがない</p> <p>ほか思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を今後どのような形で利用していきたいか ・地域資源の価値を上げるための方策 ・地域資源の維持、持続可能性 ・資源は資源化できるか ・生活感の喪失を防ぐために
諏訪市在住 地方自治体職 員 男性	<p>何処の街でも言えることですが、いいものはたくさんあるけれど点在していて街並みとして繋がりに欠ける、活かし切れていないと思いました。私の住む諏訪に比べれば、工夫もされていて、うらやましくも感じましたが、もっと頑張れです。</p> <p>街歩きには、道標が足りないかな。それと、これは難しいと思いますが、寺の街ですので、静けさのようなものが欲しいです。その場所に佇んでいられるような空間があればと思いました。</p> <p>もっと難しい要求を言いますと、風の音や街の香りがするような街並みが理想です。風土みたいなものでしょうか。それが何処かに見えてくるような…。</p> <p>具体的でなくて申し訳ないですが、善光寺の周りを歩いたら、こんな人に逢えたとか、こんな話ができたとか、自分の古里にもこんな場所があったらいいなとか、もう少し此処に居たいなとか、です。</p> <p>まちづくりは、その地に住む人がそのまちを知ることから始まるようです。普段通らない道・路地を歩いてみる。そこに住む人と話をする。昔話をする。その場所・通りに何が足りなくて、何が不要なのかを自分なりに考えてみる。いい物を発見したら自慢する。そしてみんなで話をする。できれば一杯やりながら…。</p> <p>わが町諏訪にも歩いたことのない通り・道がまだまだたくさんあります。これからメタボ解消(予防)も兼ねて歩くつもりです。</p>

属性	提案事項
関東地方在住 都市計画コン サルタント 男性	<p>非常に良い歴史や文化があります。これを行政側でも守っていく時期にあるのではないで しょうか。高度地区や景観規制などが考えられます。</p> <p>「長崎さるく」で言えば、善光寺も松代もガイドつきの「通さるく」は整備されているようです。 これを長崎でも課題になったように、どのようにして観光客がガイドブックを片手に持ち、勝手に 歩いてもらう「遊さるく」にするかが課題であると思います。</p>
関東地方在住 団体職員 男性	<p>善光寺周辺の路地には、</p> <p>東京にはない「歴史」がある。門前町として培われた「町と人々の暮らし」があるはずだ。 昨年10月のまち歩きでは、人々の暮らしの部分が見えなかったが、たぶん、善光寺の重み と同様、「重厚な暮らしのなりわい」があると思う。今後、この「路地に住まわれる人」にスポッ トを当てた物語を浮き出していったらいいと思う</p> <p>善光寺周辺の路地に目をつけているのは、</p> <p>地域の NPO などの活動家ですね？やはりこの活動に三方向からのチカラが欲しいと思 います。ひとつは「街中の人 = 路地の暮らしを良しとしている人」二つには、路地の魅力に 取り付かれたアーティストやまちづくり(正しくは「まちそだて」)を志す外の人と、三つには、 やはり長野市で善光寺の路地を大切にしていこうとしている行政の人の方向付けが必要で す。三つのチカラが同じベクトルをもって動いて欲しいです。</p> <p>街中を歩いて感じたことは</p> <p>善光寺の本通りは観光客、裏通りは地域の人々の暮らしとして隔絶していた。これから 路地観光を打ち出すならば、本通りから観光客？を引き込む仕掛けが必要だろう</p> <p>宿坊の並ぶ路地は町並み景観が守られていたが、住民の生活が滲む二項道路の町 並みは、すでに壊れてしまっていた。今後、路地をいかに守るか！行政側からの施策の 提案を求める(最低限4mの道路は必要とするならば・・・！)</p> <p>路地の古い民家を活用して、「マチカドスポット」を提案する。(外からの人の一服スポット として・・・地域の人々からの情報発信の場として)</p> <p>歴史の重みを感じながら善光寺周辺の路地を歩きました。この路地・・・あの路地に幾つもの 民話？(昔話！)があるのではないか！と思いながら歩いていました</p> <p>とにかく長野市(=行政)が、</p> <p>この善光寺周辺の路地をどのように生かしていくのか？を知りたいです。観光の街として いくならば、多くの市民の賛同を得て現在の町並み景観を維持していくように願いたいもの です</p>

属性	提案事項
関東地方在住 都市計画コン サルタント 男性	<p>まち歩き用の地図が、どこか(何ヶ所か)で数種類、手に入ると良い。(特に夜店マップや街並みマップなど)マップはテーマごとに数種類に分かれていると面白い。</p> <p>街なかに、要所への方向と距離表示、地図(現在地)があると良い。</p> <p>道の名称が、歩く人にわかりやすく設置されていると良い。道路の名前がなければ、新たに命名すればいい。</p> <p>面白い素材はあるので、道路の舗装や沿道の建物、緑、休憩施設等が地域の特性に合わせてしつらえられているとなお良い。</p> <p>土蔵がかなり残っている。特に表参道の東側の道路。是非活用を！また、土蔵に限らず、活用しなくても良いから古い良質な建物の発掘も是非お願いしたい。マップに</p> <p>表参道東側道路と表参道を結ぶ楽しい路地が欲しい。</p> <p>長野オリンピックの街なかでのメダリストの表彰は、印象的だった。あの会場は是非ともメモリアルな場所として活用したい。</p>
関東地方在住 NPO理事 女性	<p>表参道の風情、境内脇の路地と宿坊の町並み・・・など、歴史的、文化的資産を持つ町だけがもつ魅力に溢れたエリアだと思います。観光地・善光寺として、すでにある意味確立していますね。</p> <p>ただ、残念なのは、車で善光寺の駐車場に着いてお寺の観光をして、ちょっと境内の参道で買い物や食事するという“つくり”になってしまっている点です(ま、一般的な従来型観光名所ということでしょう)。せっかくの“歩いてワクワクするはずの街”なのですから、なんとか“歩かせる、歩きたくさせる工夫” = そのためには、歩く途中で上手に休ませる工夫も = がもっと欲しいと思います。</p> <p>長野駅から歩いて行くには途中、ワクワク感が途切れますので、疲れちゃいますし。</p> <p>長野路地サミットに参加していれば、そのあたりの努力についてもお話をうかがえたと思いますが、長野駅の周辺からフラッと善光寺あたりを訪ねるといふこれまでの経験の中からは、どうしてもそのあたりの“工夫”が伝わってこないのが残念なので、感想として記しておきます。</p>
関東地方在住 都市計画コン サルタント 男性	<p>シンポジウムで、観光客は善光寺に来て、街なかに出てこないという話が出ていた。</p> <p>もう30年ぐらい前に、都心部で、交通セル方式で都心部の自動車交通をコントロールし、ミュンヘン大モールやトランジットモールで、歩行者空間を快適にしたミュンヘンが有名になった。</p> <p>これを手本として、日本でいち早く取り組み調査研究を始めたのが長野市だったと記憶している。結構熱心に数年にわたってスタディされていたようで、当時の専門誌にモデルケースとして、十字軍のマークのような都心構造がよく掲載されていた。</p> <p>この成果が今どうなっているのか聞いていない。この計画が実現していれば、駅、都心部、善光寺と繋がる大きな歩行者空間が広がり、観光客の街なかへの回遊意欲を刺激していたのではないかと思う。</p>

属性	提案事項
関東地方在住 都市計画コン サルタント 男性	<p>かつて稠密に人々が住んでいたに違いない証拠(由緒のありそうな建築、生垣、石像等)があちこちに見られたが、街から転出した跡地への次の投資が起こっていない。再居住をどうやったら促進できるのか。</p> <p>予想していたよりも地形が立体的で街の面白みを創出する基盤は素晴らしい。早期の再投資を誘発できたら、素晴らしい街になる。</p> <p>長野駅から善光寺山門に至るメインストリートについて、昭和50年代にトランジットモールにする検討が行なわれたことがある。このトランジットモールを軸に、面的に自動車交通をコントロールし、全体として歩行者優先の街にしようというものであった。これと同様の検討は、同じ時期、浜松でも行なわれたが、両市とも実現には至らなかった。</p> <p>現在、過剰自動車時代への反省が徐々に始まりつつあるが、あらためて上記メインストリートについてのトランジットモール化の検討が行なわれても良いのではないか。バスについて、都心部100円という制度を先駆的に導入してきた長野市ならばできると信じている。このことによって、バス利用者の増加が見られるようなことがあれば、駅～山門間を路面電車に切り替えることも検討して良いだろう。</p> <p>メインストリートのトランジットモール化というのは、中心市街地内に散在する駐車場の周辺地区への移転等、都市構造そのものを変革する仕事となるが、これができれば、これと直角方向の商店街や、路地があらためて重要性を増し、長野の中心市街地が輝くための交通基盤が整うことになる。また、善光寺にお参りを済ませるとさっさと観光バスに乗り込んでしまう観光客の街なかへの誘導にも寄与することになるだろう。</p> <p>中心市街地や、衰退気味であるが再生する価値のある市街地への再投資を誘発するには、次のことが必要ではないかと思っているが、諸兄弟のご意見を聞きたい。空地や低度利用地、望ましくない土地利用に対する固定資産税の上乗せ、街並みづくりに貢献し、その地区にふさわしい用途の建築物を建てた場合に、上記上乗せ税の停止と、建築物に対する固定資産税の年限を切ったの免税、設計費その他に対する補助、土地活用、建築設計、融資等の相談窓口の設置。</p>

属性	提案事項
松本市在住 元地方公共団 体職員 男性	<p>基調講演</p> <p>基調講演は大変勉強になりました。天井のスピーカーから聞こえてくる、お坊さん達の入場のさいの鐘の音、とてもよかったです。</p> <p>活動報告</p> <p>これは、つらいところがありました。</p> <p>パネルディスカッション</p> <p>コーディネーターの振りや、ご意見が印象的でした。あとは、すみません。覚えていないのです。</p> <p>交流会</p> <p>手づくりの料理：(私より)若いスタッフの皆さんのパッションが感じられて、感激でした。</p> <p>まち歩き</p> <p>上越方面からの街道筋とか、そこからどう善光寺へ繋がっていたのかとか、なぜ残っていないのかとか、この街は昭和 50 年頃まではこんな街だった、などと聞かせていただけるともっと良かったと思います。まち案内の大事なことの 6 割くらいは、かつての生活文化の“口釈”だと思います。</p> <p>朱に塗ったお地蔵さんとか、橋を渡って、階段を登った小路など、心に残っています。</p> <p>長野の街並み</p> <p>交流会場の後ろに並べられた写真だけの小冊子。あれはとても貴重です。個人、個人が写真に取っていても、それではいつかは消えていくのが大半だからです。私がそうでした。反省しきりです。</p> <p>会場から駅に向かう折、いつものように知らない小路を探検して行きました。夜のしっとりした通りの風情が好きなのですが、驚きました。廃屋かもしれません、かつての映画館かと思い、通りすがりの人に聞いたら、何とか、銭湯?とか教えて下さいましたが、たくさんの文化財、被写体があって、すごく興奮しました。</p> <p>夜のまち歩きは、探検そのものです。</p> <p>今回はじめて全国路地サミットに出席したのですが、長野の皆さんのパッション、まち歩きに参加された皆さんの熱心さと高揚感が、とても印象的でした。</p>
関東地方在住 地方自治体職 員 女性	<ul style="list-style-type: none"> * 小川の交差がめずらしい * ちょっと昔の生活名残をうまく残している * 塀に這わせたつた植物が家毎に工夫がみられる * 鉢植えが路地に似合う * ボランティアの動きがよく話に慣れている * 歩道のつくりやストリートファニチャに無理がない

属性	提案事項
関東地方在住 学識経験者 男性	<p>路地大使の委嘱の提案</p> <p>1. 目的と方法</p> <p>路地協として各地でイベントを開催しているが、その力を蓄積させるため、イベント開催毎に、ご当地のやる気のある人物2・3名に、路地協として「路地大使」を委嘱して、地元の動静を間断なく発信していただく。路地大使はボランティアとするが、路地協のホームページに顔写真入りで大使の紹介記事を掲載させていただく。</p> <p>2. 大使の選任</p> <p>大使の選任は自薦・他薦とし、代表世話人会で決定する。大使の任期は3年とし、再任を妨げない。</p> <p>3. 大使の頁</p> <p>ホームページに「大使の頁」を設けて、随時情報を入れていただく。</p> <p>4. 委嘱状</p> <p>委嘱は電子委嘱状によるものとし、本人がプリントして掲出することは自由とする。</p>
長野市在住 加工食品製造 業役員 女性	<p>1. 善光寺表参道地区のお薦めのまちスポット(私が特に好きな場所)</p> <p>仲見世から一本奥の通りなどどこを歩いても新たな発見が・・・</p> <p>2. 善光寺表参道地区の問題や課題を感じているまちスポット</p> <p>中央通りが間延びしていて楽しくない・・・</p> <p>3. 路地サミットへの感想・今後への希望</p> <p>数年に一度、人生のリセットをしにヨーロッパへ行った時など、見知らぬ町の路地裏散歩が大好きです。ここでは、全くゆとりのない、潤いのない仕事人間の私ですが、おかげ様で、善光寺周辺でも、路地を歩くことは楽しいということがわかりました。</p>
長野市在住 デザイナー 女性	<p>1. 善光寺表参道地区のお薦めのまちスポット(私が特に好きな場所)</p> <p>特に、じゃなくて最近、好きなスポットですが・・・</p> <p>「亀の湯」</p> <p>2. 善光寺表参道地区の問題や課題を感じているまちスポット</p> <p>住んでいない中ぐらゐの古さのアパート</p> <p>中央通りのナゾのセンス</p> <p>3. 路地サミットへの感想・今後への希望</p> <p>長野の路地サミットは、元気の源になりました。</p> <p>せっかくだから、路地協の人々(たぶん専門家が多いのだから)とお話してみたかったです。とは言っても話すのは苦手なので結局話せないかもしれないけれど。</p>

属性	提案事項
長野市在住 デザイナー 女性	<p>1. 善光寺表参道地区のお勧めスポット</p> <p>東之門町～城山あたり</p> <p>小高い丘へと伸びる個性的な何本かの小径。四季折々の表情が豊か。</p> <p>菅平～長野市街一望の丘からの眺め</p> <p>善光寺～雲上殿、その奥に西山を望むアングル。ちょっと意外な善光寺の姿。</p> <p>2. 善光寺表参道地区の課題スポット</p> <p>旧北国街道(桜枝町～新町あたり)</p> <p>現在でも西山地区や地域住民の暮らしを支える重要なポイントになっているが、閉店した商店や活気のない商店も多い。降雪時には道路に出された雪がかたまり、ひどい悪路となる。</p> <p>大学生のアパートや、高齢の地域住民が多い特色を活かしたまちづくりができるはずだ。</p> <p>3. 路地サミットへの感想</p> <p>新潟で興味深い紙ものを発行している方々と知り合いになれたことが良かった。</p> <p>長野スタッフのがんばりと団結？がすごかったが、何らかの形で継続していくというのは無理なのだろうか…。</p>

属性	提案事項
長野市在住 歴史研究家 男性	<p>「路地サミット」の先に</p> <p>10月25・26日、長野市で第6回「全国路地サミット」が開かれました。「路地」という普段着の生活の場所をイメージする言葉と、「サミット」という大きくて格式のありそうな言葉が絶妙に結びついた面白いネーミングの行事です。</p> <p>全国から路地に着目する方々が大勢参加して、各地のまちの魅力を発表してくださいました。</p> <p>しかし、いったいなぜ近年、路地が注目されるようになったのでしょうか。サミットが盛大に終わったにもかかわらず、私はその理由を考え続けています。</p> <p>路地は古く、数十年以上の歴史を持つ場所が多いのです。にもかかわらず、何となく権威や伝統に縛られていないと思えるのが魅力に違いありません。歴史的な文化財と言われるものや、お客がどっと押し寄せる観光地が権威となっていることに対して、限界の思いが、路地に注目する人を増やしているのではないのでしょうか。古さだとか、有名だとか、文化財の価値があるかどうかでまちの魅力を判断したくないために、路地が注目されていると考えることができます。</p> <p>今週末、信越線の長野～黒姫間で、SL (D51)が運行されます。すでに、多くの方が沿線に試運転を見に訪れ、マスコミが大きく報道し、イベントとなっています。しかし、鉄道が好きであるはずの私なのに、今回のSLの運行には心がひかれません。日常の信越線だって素晴らしいのだから。SLのイベントが好きになれない理由がなぜか、ようやくわかりました。</p> <p>そして、新しいはずの新幹線にだって、私は魅力を感じてしまう理由も。古い路線には魅力があって、新幹線の旅には味がないと、単純に決めつけることはできないのです。</p> <p>路地を通し、様々な面から社会を見つめる目を私たちは養いたいと思います。逆に今度は、路地の方が権威にならないよう、注意しながら。</p> <p style="text-align: right;">(氏ブログより)</p>

2. ワークショップの実施

(1) グループ分け

参加者の事項紹介の及び提案事項の説明の後、22名の参加者を3班に分けて、前項の全国路地サミット2008IN長野参加者等からの提言を踏まえて、善光寺表参道地区の問題点と改善すべき方向について議論した。

【Aグループ】

(路地協側)

・今井 晴彦
・岩間 真二
・川上 秀樹
・日置 圭子

(長野側)

・早川 一夫
・三浦 悟
・田山 恭子
・武 雅繁

【Bグループ】

(路地協側)

・堀田 紘之
・小川 幸男
・高尾 利文

(長野側)

・小川 久雄
・東澤 加代子
・石川 利江
・武田 るい子

【Cグループ】

(路地協側)

・牧 葉子
・司波 寛
・木村 晃郁

(長野側)

・祢津 厚子
・駒村 みどり
・阿久津 みゆき
・久米 えみ

(2) ワークショップの実施

各班で検討後、班ごとに代表者を決めて発表した。

1) A班提案

結論はシンプルなところに行った。

議論の経緯としては、長野のまちは誰のために、誰が主体になって、どのようにしていきたいのかが見えていない。

善光寺を中心にした観光地としての要素と、生活者が住んでいて、観光によって利益を得ている商店街の3つの立場の人々が同じエリアに交錯していて、統一性が取れないというのが長野の問題点ではないか。

これを解決するきっかけ作りとして、地域に住んでいる人たちがまちを見ていない、まちに対して無関心なことが、無神経な看板を作ってしまった、ちぐはぐなやり方になってしまう。地元の人になるべく歩いてもらって、歩くことからまちを見るということにつなげていってはどうか。

健康促進という気運があることからそれに乗って、高齢者や中高年の方のメタボ解消や、長生き目的とした健康という切り口から、善光寺界隈に色々なコースをつくって、ピンピンコロリではないが極楽コースとして、善光寺さんとからめて歩くと極楽へ行ける御利益があるコースを。小中学生は歩くと賢くなれる文殊コースを、土曜日の朝、各商店に協力してもらい商店に問題が置いてあって、全問正解者には何かご褒美があるなど。地元の人向けには、面白い店を載せたマップを、若者には恋愛成就コースとして、雰囲気のある小径、安くてすてきなお店などを載せた、地元の人が活用できるようなマップを地元の人が歩くことによって作ることが、結局地域を見ることになり、地域に対する愛着がわいてきて、それによって方向性が見えてくると思う。

また、地域の人がおもしろがれば、外から来た人もそれに惹かれて良いまちだなとつながっていくのではないか。

Aの結論としては、まず観光を捨てよう！地域の人に向けて、健康などの切り口でまちにエンターテインメント性をもって、掘り起こしていくべきということに至った。



2) B班提案

長野市の比較的面白いのは、外側で昔の間屋街の道路が残っている。西之門町の桜枝町というのも昔は商売が盛んであった。こういうところを見直していくべきである。

ナノグラフィカのような若い人たちが住んでいるところで、地元のお年寄りと一緒にしながら地元を元気づけていくことも大切である。

古い鉄工所が廃工場になっているのをアーティストレジデンスに使ってみてはどうか。

もっともショックを受けたことは、30年前の権堂は賑やかだったが、今はひどい。権堂町を西から東に歩いていくとどんどん時代が戻っていくような気がする。

西本願寺別院や十念寺、延命庵などがある界限を、ある種巢鴨的な高齢者に対応し、しかも物語性を作って善光寺に来た時は十念寺界限をめぐるなど、善光寺は長野においてはパチカン的であるが、善光寺と街なかの交流が必要である。このあたりと関わってイベントを行ったが何も残らなかったが、延命庵で子供を集めて数珠回しをする地藏盆を復活させた。年々賑やかになりつつある。これは、仏教版ハローウインのようなもので、お寺を回ると全部のお寺でお菓子や花火がもらえる。これは長野のこどもできちっと復活し得ると思う。



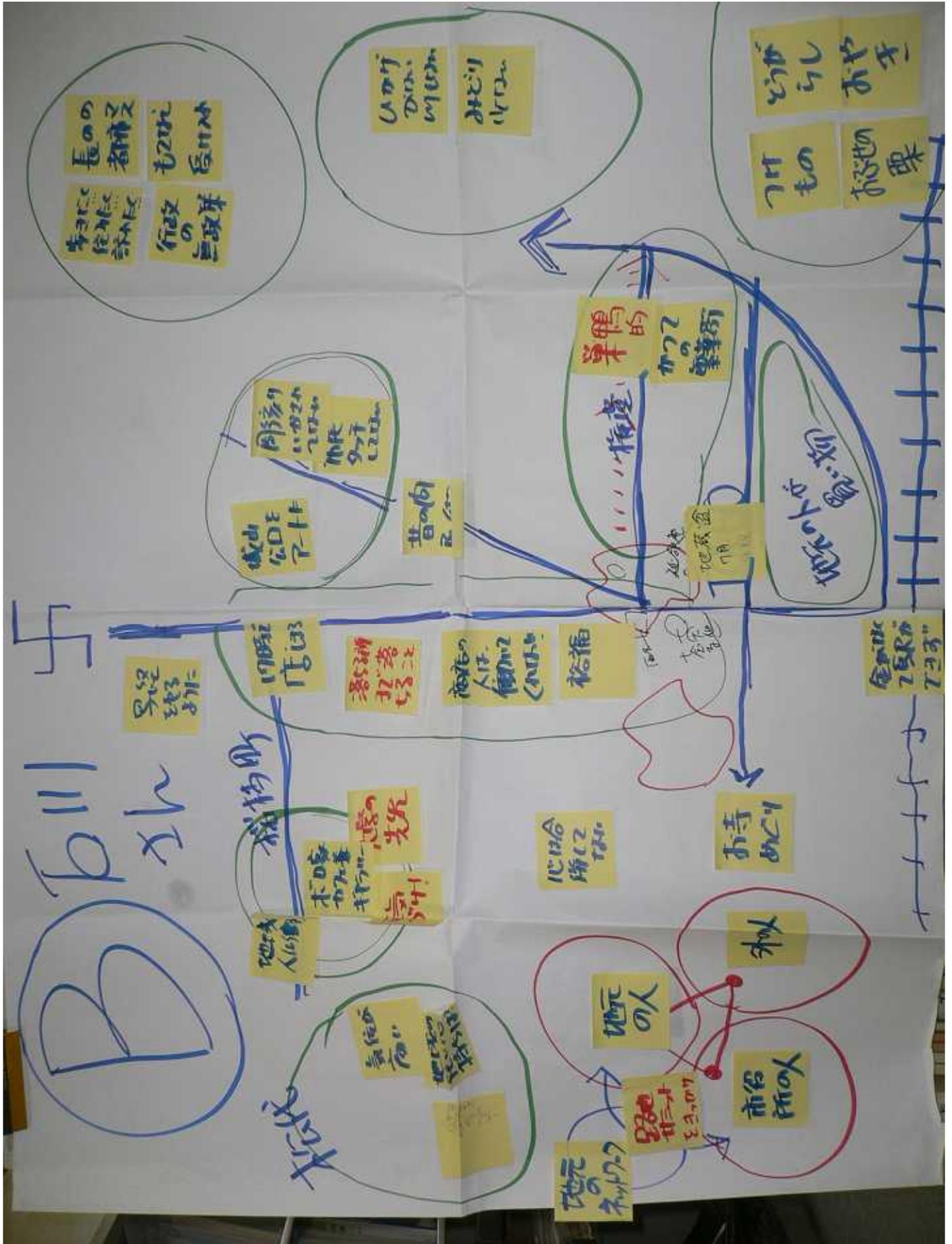
非常に批判が出たのは、長野市職員は何を考えているのか、あるいは、熱い人はいないのか、住民と一緒に馬鹿になってくれる人はいないのかという意見が出たが、知る限りではないと、できるという人はいるが馬鹿になれる人はいない。

これからおそらく必要となるのはネットワークではないか。松代はNPO 夢空間やエコーロード・まつしろなど色々問題はあるにしても比較的住民活動が形を作ってきている。善光寺を中心とした地区では小さなグループはたくさんあるが、大きな力になれるような動きにはなっていない。路地サミットの実行委員会では、全部のグループに名前を連ねていただいたので、長野の人は熱しやすく冷めやすいのではという意見もあったが、路地サミットで作ったネットワークをも一度メーリングリストなど、やりやすいところからでも続けていける方策を考えていきたいと思っている。

長野のお土産は、小布施の栗、唐辛子、お焼き、漬け物とでているが、毎年700万人近い観光客がご開帳ではない時でも善光寺には来ている。長野市のまちづくりが、観光客がまちの中に交流・滞留できるような仕掛けを作っていくことが大切であると思った。



B班が議論した結果(模造紙による)



3) C班提案

結論は、「住む人がまず、住んで楽しい！来ても楽しい！」

観光を捨てないとだめだと。観光バスが来ても素通りしてしまうまちである。善光寺には行けども街中には出てこない。

そこから、トランジットモールの話も出ました。連休に社会実験をする動きもあるようで、これはまだまだ考える余地ありそう。観光バスの駐車場の位置が問題。これに市が取り組めば、善光寺と商店街に確執があったとしても何とかできるのではないか。この地域は、車との共存が必要である。住んでいる人にとっても、観光客にとっても車と共存できるまちにしたい。

重要なのは地元の人を歩かせる工夫。A班と同じ結論で、歩いて楽しいまちにしようということ。ただ、地元の人のお話を聞くと、たばこを買いに行くのにも車でドアトゥドアでないといやだということ。地元の人を歩かせる工夫が必要で、それは何かというと観光だと。観光を前面に出して、観光のためには必要だということで地元の商店街をだましてしまう。

いくつもある商店街がバラバラだと聞いた。それでは、観光ということで一つにまとめていくことが必要になってくる。長野の商売は、門前町の特徴で「おかげさまで」と買う方が頭を下げて買う。観光客相手に本当の客商売をしてもらう。

宿坊が良くなってきている。料理に工夫がされてきて、イタリアンを出すところもある。今は観光客がバスで来て善光寺さんだけ見て帰ってしまうが、宿坊に観光客が泊まる工夫が必要である。

水の再生。水路が、車の通行(すれ違いをしやすく)からかなり蓋かけされている。一方通行にしたり、途中にすれ違いポイントを作るなど考えられる。

観光を前面に出すのだけでも、住んで楽しいまちにしたいのが本当の狙い。マンションが建ってきている。高崎にもマンションが建っていたが今は廃墟になっている。それは、街なかに住むための機能がないから、車がないと買い物ができない。しかし、長野は街なかで生活ができる。商店街があるし、生鮮食料品店も残っている。

ただ、ちょっと寂しい。例えば、権堂は昔は良かった。学生時代に飲み行くところとしてくあがれの場所だった。昼間は品格のある商店街であり、夜は宿坊への宿泊客も多くて賑やかであった。

核が必要ではないか。ロキシーという単館のミニシアター(名画座)があるが、郊外にシネコンができて客数を増やしている。ほかにミニシアターがあり、これらが核になるのではないか。

まち歩きをする場合、まち歩きマップがどこで手に入るのかわからない。駅の観光案内所ではこの善光寺のご開帳の時に品切れしていた。マップを配布(販売)するインフォメーションセンターがあったら良いのではないか。ただ地図がおいてあるのではなく、地元の人と会話ができる場所を観光客向けとして作るのであるが、地元の人とのコミュニケーションセンターとして使えるものを作ってしまおう。

住んで楽しい、来て楽しい。観光をお題目にしてお金を使わせて、住んで楽しいまちを作ってしまうというのが結論。



4) 質疑応答

B班:トランジットモールは結局どういうことになったか。

C班:トランジットモールは議論を尽くさなかった。観光バスの駐車場と考えられるのが、市の所有している土地(セントラルスクエア=長野オリンピックの表彰場)があり、そこを活かしてそこから歩いてもらえるようにしてはという意見があった。

C班:付け加えると、生活者の道路と観光客の道路を明確に棲み分けができれば、色々なことが解決できるのではという意見があった。

B班:観光客が路地に入ってくると、生活とのバッティングが問題になると思うが、善光寺表参道地区としてはどのように解決していくのか。

C班:そのバッティングは、ドラマチックなものではないか。車とバッティングするとまずいが、路地のまちでバッティングしても危なくはない。生活者を歩かせないと、観光客も歩かないという結論。



A班:同じ結論。手段が違うだけ。

B班:県の方がいるが、まちづくり行政をどのように進めているか。

A班:県と市はあまり連携が取れていない。県で提供している仕組みやメニューが、長野市の方であってないということがあるのではないか。長野に限らず、県庁所在都市と県庁が仲の良いということ、連携が取れているところはないのではないか。長野の場合はその傾向が強いと思う。

C班:長野は国から中心市街地活性化の補助金を全国の中でも10番目くらいにもらっている。47事業が5カ年計画の中で決まっており、100億円程度の補助金が投入されている。ほとんどハードである。県で出している元気まちづくり支援金は、特定行政庁で国から補助金をもらっている長野市は一切使えないことになっている。それで県都の連携がない。

A班:個人的に県と市の職員で仲のいい人はいるが、役所が絡むときちんとした話し合いをできる場がない。きちんとした意見交換場では淡々と済んでしまうが、どこでも同じと思うがその後の懇親会では色々な意見が出てくる。

B班:県と市の関係は、同じことをダブってやっているということはないと思うが、地域に密着したことは市だとすると、県はどういった立場で地域と関わっているのか。

A班：重複している部分は少ないがある。例えば観光やまちづくりである。観光であれば、全県と考えると重点を置くとなると市町村単位になってしまい、市町村と県の観光担当が連携取れていないと、効率的に予算を使えない場合がある。まちづくりも、小さい町村で専門の職員を配置できないところでは県で対応している。市になると、県からノウハウや人材を提供しようとしても市では既に持っている。県の役割として、前の知事は小規模町村に対する援助が大きかったが、知事が替わってその方向性が全ての市町村に公平にという方向ではないか。大きい市では、大きなお世話であり、小規模町村では援助が少なくなってしまったという感がある。



A班：善光寺のパワーというのは、どの程度あるのか。城下町に似ているが、城は全て機能を停止しているが、善光寺は僧侶が沢山いてまちができた。後から来た人は、善光寺と関係なく住んでいる。善光寺の僧侶の発言権や善光寺の重要度は長野市にとってどの程度の比重を持っているのか。それが非常に歌掛ければ、車を持っている人は全て地獄に行くということであれば、話は済んでしまう。

B班：長野市では善光寺の僧侶については、実はやっかみを含めてベンツを何台も持っているなど、悪口やからかひの対象の場合が多い。今は少しずつ変わってきているが。オリンピック前までは長野市の人たちは善光寺を人が沢山来る仕掛けではあるが自分たちとはあまり関係ないという感じであったが、オリンピックの時に善光寺って、たいした寺なんだということや、もしかしたら使えるのかなという認知度が一般市民に上がったような気がする。世界遺産運動もはじめている。善光寺の40代の僧侶が、チベットの問題で動いている。芸大出身の僧侶が美術からのアプローチで善光寺に残っている仏像の検証を始めている。善光寺の中で今回路地サミットができたように、演劇などを行うなど少しずつ開かれてきている。少しずつ変わってきたが、まだまだ問題はあある。長野市民も、もう少し善光寺とコミットしていくことを考えるべきだと思う。



A班：善光寺との付き合い方が大事だと思う。

B班：善光寺には素晴らしい資料があり、史料館などももっときちんと作るべきだと思う。

善光寺は天台宗と浄土宗の協議制で運営しているが、仲が悪い。浄土宗の上人様はずっと善光寺にいて、天台宗の住職・副住職2人は天台宗からの単身赴任のような形。

A班：大勧進は皇室の方が住職では。

B班：大本願の住職 = 上人が明治から代々皇室から来ていたが、跡継ぎがいなくなって苦慮している。善光寺の院坊併せて39あり、そのほかに大本願、大勧進にいる坊さんと尼さんがいる。多くの仏教界の人材を活かしていくべきだと思う。

C班：私は浅草出身であるが、浅草には浅草寺さんがあって、浅草の繁華街のほとんどが浅草寺が地主で、浅草寺さんには逆らえない。

A班：各テーブルに地図が配られているが、C班で地元の人が溜まれるインフォメーションセンターを作るべきだという提案をしていたが、これはそういうことめざしているのか。

C班：めざしてやっている。パティオ大門の「えんがわ」という喫茶店に、長野の情報をおいてあるというか、そこが発行している。

A班：先ほどのC班の提案は、こういったものを活用すべきということか。

C班：外の人が見てわかりやすいサインを出して欲しい。モンゼンプラザにも、この絵地図を出しているコンベンションビューローに同じような機能があるが、そこは5階にあって外の人にはわからない。地図も4種類くらいあってどれを選んで良いかわからない。

B班：高橋美江さんが作ったのは観光コンベンションビューローがつくって、こちらは市の補助金を使ってまちかふえという市民団体がつくっている、こちらもちがう団体が作っている。

A班：色々なものがあるのだけど、どれも帯に短しである。

C班：全てをまとめるというのは無理だと思う。色々なものがあって、それが1箇所においてあり、自分の好きなものが選べればいい。

A班：今までみた中ではこの地図は比較的良い。前回のサミットの時にいただいた地図は、絵であって地図ではない。

C班：長野市にはTMOがあるのだから、こういうグループに対して活動資金を投入すればいいのだが、何時も手弁当でやっているから限界がある。



A班：柏のNPOが運営しているインフォメーションセンターが駅にあって、会員が200～300人いて、観光情報だけではなくまちそのものの情報提供を行っている。15カ国語に対応できる。市民の中に色々な言葉を話することができる人がいて、そういった人材を活用している。これは行政ではできない。

A班：柏市は元気が良い。

C班：市長さんワンマンなんですよ。

A班：ワンマンが良い方向のワンマンならいいと思う。

A班：だんだん自信がついちゃって、誰も文句言えなくなっている。

C班：長野の方で、今日車以外の方法でここに来られた方はいますか。どういう方法で来られましたか。

A班：車ではない人、手を挙げてください。(6名? 電車、歩き)

C班：地方へ行くと、参加者は格好いいこと言うけど、実は車で参加してきている。そういう意味では長野はまちが健全だと思う。

A班：某市の都市計画課の課長をしており、建築指導もし、高度地区指定や特別用途制限もしたのですが、こういったまちづくりを民間の皆さんとやっていく中で、皆さんは行政にどんなことを求めているのかわからないところがある。先ほど、資金をもらえればがんばれるという意見もあった。あるところで、どういうまちにしましょうかと聞いたところ、まず行政が示せと言われた。どれもちょっと違うところがあるんだと思う。本当のところ、県や市がどういうことをすればまちづくりがうまくいくのか、その辺の話をしてもらいたい。B班の意見の中でこの長野市善光寺周辺で高度地区をやってはどうかなどの意見があった。神楽坂では地区計画を住民提案で策定した。都市計画にもいろんな手法があり、逆に、この全国路地のまち連絡協議会に関わって依頼、この2項道路は拡幅しなくても良いよと、勝手にやってしまった道もある。これは、サミットで約束したからやってしまった。行政に馬鹿になれる人がいないといけないという意見もあった。馬鹿になるための秘策、材料をいただければ私の所から発信して、長野市や県に届ける可能性もあるので教えて欲しい。

C班：今の2項道路の問題やサミットで発表があった神戸の密集市街地における空き地を活用した避難場所に活用することで、建物の改築や新築ができるような、一団地扱いしなくてもまちの更新ができるような、住民達がやる気になって行政に相談に行った時に、前例が無くても前向きに、住民と同じ視点で考えてもらうことができないか。都市計画法や建築基準法を頑なに守るのではなく、住民と一緒に目線で考えてもらうだけでオリジナルなまちづくりができると思う。

A班：ちょっと答えは出せませんが。

B班：私も役所の中で道路は4mいらぬのではないかとやってきた者で、2項道路について行政がやっていることは違反処理しているだけである。地域で何ができるのか。例えば神戸では連担建築制度を活用している。そういうものを色々併せて工夫していけばいいのではないか。

C班：建築基準法で性能評価が採用されている部分がある。まちにもそういう性能評価という視点があっても良いのではないか。神戸や東京の荒川区においては、路地沿いの住民が合意さえすれば幅員 4mの道路を整備しなくて良い。住民達が合意することも必要で、行政の柔軟な対応と両方必要ではないか。



C班：高知の「くれ」で最後に合意できたのは 45 cm以上を 3 項道路として認めることであった。

C班：専門家のアドバイザーを、市民や NPO 団体が相談に行った時に派遣してくれるような制度が市町村にあると良い。

B班：長野にないのか。

C班：県にはあるが、市にはないと思う。

A班：市レベルでは、市の職員を派遣する制度はあるが、そこまで踏み込んではいないのが実際。そこから先は、ボランティアという言葉が良いかわからないが、グループに入ってという形になる。

B班：やはり県が強いのでは。

A班：全国的には、8年くらい前に建設省と全国アンケートをしたが、基礎的自治体の 18%くらいはそういう制度を持っている。これからそういうことを考えたとする自治体が 70%程度あった。これを足し併せれば、相当数の自治体がそういう制度を持つであろうと思われたが、実際には財政部門の合意が得られなくて導入できていないようである。

第 章 松代地区

1. 全国路地のまち連絡協議会会員等からの提案

全国路地サミット 2008 IN 長野参加者への事前アンケートや参加者から寄せられた提
言等を以下にまとめる。

属性	提案事項
長野市在住 コンサルタント 女性	<p>文武学校を中心に武家屋敷の佇まいを残す界隈が美しい町だと思います。松代の主なポイントを徒歩で見てまわれ、堪能できるコンパクトさ、おもてなしや案内をしてくださる体制ができていることなど、評価できるのではないのでしょうか。ただし観光に必要な、立ち寄りやすい店や入ってみたい店が少ないのは、今後の松代の課題なのではないかと思います。</p> <p>また、松代に残る各屋敷を回る泉水路は、下級武士の屋敷から家老の屋敷に流れる水路で、必然的に水をきれいに使わざるをえないシステムではありますが、水をきれいに使う地域共同体の知恵として、来訪者に紹介したい松代の魅力のひとつでもあると思います。</p>
長野市在住 コンサルタント 女性	<p>2004 年以前に道路拡張が行われたことが残念です。中心商店街のある通りが、なんとなく伝統的な感じの？格子などのある新しい家が並んでいます。きちんとしたコンセプトをもった建築家などとの提携があれば、もう少しよくなったと思います。道路幅が前のままだった松代を残すべきだったとも思います。</p> <p>文武学校から象山神社、山寺常山邸に地下壕につながる歴史の小道のあたりが、もっと魅力的になるといいと思っています。小さなギャラリーや食べ物屋などの要素もほしいと思います。</p> <p>寺町などエリアごとの魅力が探せる、奥の深い町です。ただあまり商業的になり過ぎない配慮を持って、静かに発展することを希望しています。</p>
関東地方在住 都市計画コン サルタント 男性	<p>全体的にゆとりがあり、伸びやかな街並みである。</p> <p>ゆとりはあるが、若干間延びしているのが、所々に休憩スペースなどがあると良い。</p> <p>和菓子店などで、一休みできる場所があると良い(街道筋ではなく)</p> <p>まち歩きマップが数種類、駅またはバス発着所にわかりやすくおいてあると良い。</p> <p>飲食店情報をもっとあると良い。また、是非、松代ならではのお食事処を！ = 食材、調理法、シチュエーション(武家屋敷・庭など)</p> <p>街なかに、要所への方向と距離表示、道路名表示があると良い。(地図もあるとなお良い)</p> <p>街なかを歩いていて、車にクラクションを鳴らされることが結構あった。車が大きな顔で走れない工夫をしてはいかがか。</p>

属性	提案事項
関東地方在住 都市計画コン サルタント 男性	<p>江戸、戦国の世にタイムスリップしたような景観が展開していた。武家屋敷など大型の建造物がよく修復保存されていて、町が真田博物館という雰囲気である。城下町の設計で道の幅員を最低でも3間くらいでやったのか、路地はほとんど見かけなかった。町人地のほうは面影が僅かに残る程度で、道路も直線的なところが多いため景観の変化に乏しかった。全体に建物も人口も密度が低い都市となっているためか、限界性がかけている。このような特性を活かしつつ今後の展開としては次のようなことが考えられる。</p> <p>自転車利用の促進。密度が低いので歩行スピードであると変化量が少なくなってしまうこと、範囲も比較的広いので自転車で巡ることを主にしていくことが良いのではないかと。路地は少なくとも、幅員があり走りやすそうな道は多い。</p> <p>当日着物シンポジウムがあったが、和服で登場するまちの人が多いと一層真田博物館という雰囲気が高まる。無理であれば、往時の人物の銅像などをあちこちに置いて、歴史をしのばせるというのはどうだろうか。多少やりすぎかもしれないが。</p> <p>エコーロード・まつしろの取組などもあり、地域文化を大事にした地道なプログラムを主にした集客を続けることが大事のように思われる。街に品位があることが良いので、あまり観光ズレしてしまうと魅力が低下してしまう危惧がある。</p>
諏訪市在住 地方自治体職 員 男性	<p>仕事の都合で当日は参加できませんでした。ただ、長野に来た時は、出来るだけ松代の街に訪れることにしています。好きな街並みです。私がいつも訪れるのが、平日が多く、人通りが少なく静かなせいかもしれません。ホッとするような空間が嬉しいです。とは言っても、ほんの一部しか見ていませんので、一度、ゆっくりとまち歩きをしたいと考えています。</p> <p>松代は、街づくりの方向性がはっきりしていると思います。そして訪れるたびに、少しずつですが街が変わってきています。もちろんいい方向にです。街並みが変化して行く様を見るのも楽しいです。</p> <p>私が行政(都市計画)に携わる影響でしょうか、特にいいなと思ったのは足元です。単に黒い舗装ではなく、工夫があります。少し統一性に欠けるのが残念ですが。</p> <p>まちづくりは、その地に住む人がそのまちを知ることから始まるようです。普段通らない道・路地を歩いてみる。そこに住む人と話をする。昔話をする。その場所・通りに何が足りなくて、何が不要なのかを自分なりに考えてみる。いい物を発見したら自慢する。そしてみんなで話をする。できれば一杯やりながら…。</p> <p>わが町諏訪にも歩いたことのない通り・道がまだまだたくさんあります。これからメタボ解消(予防)も兼ねて歩くつもりです。</p>

属性	提案事項
関東地方在住 都市計画コン サルタント 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を今後どのような形で利用していきたいか ・地域資源の価値を上げるための方策 ・地域資源の維持、持続可能性 ・資源は資源化できるか ・生活感の喪失を防ぐために
関東地方在住 都市計画コン サルタント 男性	<p>善光寺表参道地区を上回る荒廃ぶり。武家屋敷周辺地区やかつての商店街地区等に限定して、新たな居住者を呼び込み、街の再生が必要(コンパクト化と活性化)。また、老朽化して倒れそうな建築物のうち文化的な価値のあるものについては、行政が支援して修復保全すべき。余剰市街地については、公園、森、畑にする方策検討が必要。</p>
関東地方在住 都市計画コン サルタント 男性	<p>松代は平坦なまちで、その広さから自転車があうと思います。観光も日常も自転車のまちにしていってはどうでしょうか。</p> <p>自転車と言えば、サミットの時は、レンタサイクルにりましたが、かなり古くて、また目立たないように設置されており、どうしたいのかははっきりしていません。ルイガノやピアンキ、或いは2人乗りのタンデムなどのお洒落な自転車を置くと良いかも知れません。</p> <p>「長崎さるく」で言えば、善光寺も松代もガイド付きの「通さるく」は整備されているようです。これを長崎でも課題になったように、どのようにして観光客がガイドブックを片手に持ち、勝手に歩いてもらう「遊さるく」にするかが課題であると思います。</p>
関東地方在住 学識経験者 男性	<p>路地大使の委嘱の提案</p> <p>1. 目的と方法</p> <p>路地協として各地でイベントを開催しているが、その力を蓄積させるため、イベント開催毎に、ご当地のやる気のある人物2-3名に、路地協として「路地大使」を委嘱して、地元の動静を間断なく発信していただく。路地大使はボランティアとするが、路地協のホームページに顔写真入りで大使の紹介記事を掲載させていただく。</p> <p>2. 大使の選任</p> <p>大使の選任は自薦・他薦とし、代表世話人会で決定する。大使の任期は3年とし、再任を妨げない。</p> <p>3. 大使の頁</p> <p>ホームページに「大使の頁」を設けて、随時情報を入れていただく。</p> <p>4. 委嘱状</p> <p>委嘱は電子委嘱状によるものとし、本人がプリントして掲出することは自由とする。</p>

属性	提案事項
関東地方在住 地方自治体職員 女性	<ul style="list-style-type: none"> * 大本営跡: 高校生の解説はもちろん立ち居振る舞いがいい * 庭自慢 * 武家屋敷街の泉水路 連続性がすばらしい * 塀が美しい * まちあるきはできるが路地不足 * 歩道のつくりやストリートファニチャーに無理がない
関東地方在住 NPO理事 女性	<p>松代はとにかく好きなまちで、四季折々、歩きたくなるまち、通いたくなるまち。それで、ここ何年か何度か伺わせてもらっています。</p> <p>松代には東京のよそ者にそう思わせるだけの魅力、日本人の心の奥に訴えるような魅力が溢れています。山々に抱かれた武家屋敷の町並み、象山神社、文武学校...私の好きな松代を挙げたらそのままガイドブックです。ただ、私は単に古いものが残り、ゆったりした時間が流れているから松代に惹かれている訳ではありません。日本が誇るべき学問・文化の歴史を遺伝子の記憶として受け継いできた「選ばれし地」のみがもつ気品と洗練が松代にはあり、それが空気のように自然、町並み、古寺、そして暮らす人々を包み込み、輝かせているからです。</p> <p>それを、これからも松代のまちづくりが、守り続け伝えていけるかどうか为正念場だろうと感じます。自称・松代応援団としては、このままの落ち着き静けさを保ちつつ、でも、いまの時代にも対応する形を模索しながら、さらに魅力的な松代を目指してほしいと切に願っています。文武学校でのイベントや講座等はとてもうまく企画していると思いますが、“歩いて知る魅力”を広く伝えるためには、やはり、例えば“食”や“買い物”などの楽しさの提供も必要でしょう。それを薄っぺらな観光地化路線には決して走らずに、しかし経済的に成り立たせるという難しい挑戦に果敢に取り組んで欲しいと願います。</p>
関東地方在住 都市計画コンサルタント 男性	<p>松代は盆地好きの私には大好きな街です。だからこそ、ちょっとだけ辛口の印象記を書きましたので、お閑なときにでもお読みくださいませ。</p> <p>松代は私にとって初めての訪問であった。わたしがあある街を初めて訪問する時は、事前に調べることをしない主義である。ぶっつけで行って見て、その街がどれだけ私を街の入り口から歓迎してくれるか、そして街のなかをいかに上手に見せてくれる仕掛けになっているか、それを試すのである。</p> <p>結論から言うと、この松代は落第生であった。</p> <p>もっとも、これまで及第した街はないから、仕方が無いとも言える。</p>

いずれ私の「まちもり通信」の「街並み発見」にも松代のことを書くが、ここにはとりあえず落第の理由をレポートしておく。

長野駅前からシャトルバス「エコール・ド・まつしろ」号に乗る。日曜日というのにガラガラである。

この日はたまたま私たちサミット参加仲間が乗っているからにぎやかだが、いつもは乗客がいるのかしら。ハイデッキの観光バスタイプの乗り合いバスなので、もったいない。

そもそも、これに乗るのに、駅前で乗り場案内からして、どこにあるのか探すのにうろうろしてしまい、交番でも分からず、どうも不親切であった。

私は観光的に用意されている名所旧跡には、あまり興味がないへそ曲がりなので、普通の街並みを主に見て歩いた。

松代の街は、観光への取り組みをそれなりに街づくりとしてやっているようで、歴史的な武家町も商人町も、そして木町通りの新しい街並み作りへの努力も、なかなかよかった。

一応は観光スポットとして、池田満寿夫美術館、佐久間象山記念館、大本営地下壕の3箇所では見学した。これらも満足だった。

松代写真その1

大不満であったことが二つある。

第1は、観光案内地図が全くもってないことである。

歩くには、その距離が分からないのが一番困るのであるが、それが松代のどの地図を見ても分からない。かるうじて、街角に立つ案内看板が、縮尺が合っているのみである。



一生懸命作ったらしい「信州城下町松代まるごとミュージアムかわら版絵地図」なる観光地図も、買い物ついでにくれる地図も、地図の基本である距離と南北が分からないのである。縮尺が合っていないお絵かきでは、これを持って歩くのが不便で仕方がない。

それらの観光地図には、観光スポットしか書いていないから、そこが街の中なのか、田んぼの中なのか、山の中が分からないし、私の興味のある街並みはどこにあるのか分からない。路地も書いていない。

これは松代に限らず、長野の善光寺門前町の観光地図も同じだったし、私の知る限り、日本全国の街で同じである。困ったものである。

もっとも、私くらいの街歩き達人となると、わが眼と鼻だけでも、街並みのよさそうなところ(特にB級街並み)を探し出すことができるのであるが。

地図を作るには、どこの市町村にも、縮尺1/2500の地形図(国土基本図)がある。まずこれを下地に薄く印刷し、その上にお好きな案内地図を描いてはどうか、そこから先はデザイナーの腕次第である。そして重要なことは、地元の人々が作ってはいけないのだ。知りすぎていることを記入しないからである。地図はよそ者のためのものなのだ。と、いつもどこの街でも観光関係の方にこう言っているが、やってもらえない。唯一、私が指導した鯖江市の地図のみが、私の眼に合うものだ。

大不満の第2は、街の中はそれなりに景観を保つ努力をされていて、ちょっと気持ちがよいのだが、街の出入り口周りになると、とたんに広告だらけのハデ派手な醜い風景に出くわしたのだ。

頭かくして尻かくさずというか、玄関はゴミだらけでも居間がきれいならよいのか。松代写真その2

街を訪れる客が、最初に出くわす松代の風景が、こんなに汚れていても松代の人たちは平気なのだろうか、不思議である。わがコレクション「日本全国醜い風景アルバム」に風景がひとつ増えた。



上と逆に街から出て行くときの風景、自動車屋が風景を壊す



属性	提案事項
長野市在住 食品加工会社 役員 女性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 松代地区の問題や課題を感じているまちスポット 駅周辺がいまひとつ趣がない。 2. 路地サミットへの感想・今後への希望 数年に一度、人生のリセットをしにヨーロッパへ行った時など、見知らぬ町の路地裏散歩が大好きです。ここでは、全くゆとりのない、潤いのない仕事人間の私ですが、おかげ様で、善光寺周辺でも、路地を歩くことは楽しいということがわかりました。
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 松代地区のお薦めのまちスポット 「うな炭」から鍵屋小路を抜けて「かじや」へ抜ける横道 鈴木商店、青木はきもの店などのスローライフな小売店 お医者さんの仏像ギャラリー最高 2. 松代地区の問題や課題を感じているまちスポット 歴史の道 3. 路地サミットへの感想・今後への希望 長野の路地サミットは、元気の源になりました。 せっかくだから、路地協の人々(たぶん専門家が多いのだから)とお話をしてみたかったです。とは言っても話すのは苦手なので結局話せないかもしれないけれど。

2. ワークショップの実施

(1) グループ分け

参加者の事項紹介の及び提案事項の説明の後、24名の参加者を3班に分けて、前項の全国路地サミット2008IN長野参加者等からの提言を踏まえて、善光寺表参道地区の問題点と改善すべき方向について議論した。

【Aグループ】

(路地協側)

- ・堀田 紘之
- ・日置 圭子
- ・高尾 利文

(長野側)

- ・石川 利江
- ・田山 恭子
- ・内川 洋子
- ・小池 欣一
- ・小林 貞男

【Bグループ】

(路地協側)

- ・今井 晴彦
- ・牧 葉子
- ・岩間 真二

(長野側)

- ・東澤 加代子
- ・松浦 富美子
- ・佐野 民雄
- ・田中 加代子
- ・香山 篤美

【Cグループ】

(路地協側)

- ・川上 秀樹
- ・小川 幸男
- ・木村 晃郁

(長野側)

- ・山本 和雄
- ・小川 久雄
- ・荻原 幸子
- ・三浦 悟
- ・飯島 宣公

(2)ワークショップの実施

各班で検討後、班ごとに代表者を決めて発表した。

1) A班提案事項

まちの西側は歴史の道を中心に観光的にもまちとしてかなり整っているが、東側の元の町人地については、観光的に人を呼べる状態ではない。

これだけ素晴らしいまちに人を呼ぶためには、現在2時間しかまちに滞留していない、トイレがない、休むところがない、お土産に何ら工夫やセンスがない、飲食店やお茶を飲むところもない、といったところについては他の班でも出たと思う。

B&B 作戦とは、ベンチと便所ということ。2時間以上まちを歩いていただくためには、景観的に美しい休むところが必要である。

しかし、そういうことが中々進まないのは、松代が誇り高い武家の商売であるため、「食べ物を観光客用に作らねばならないのか」など、外の人から提案されても内には関係ないという反応になってしまう。何をしようとしても、内の人たちが阻んでいるが問題である。その閉鎖性は、裏腹として、私たち外の者が素晴らしいと思う松代の江戸時代からの生活・文化(=生活博物館)を守り続けている気質と一体のものである。

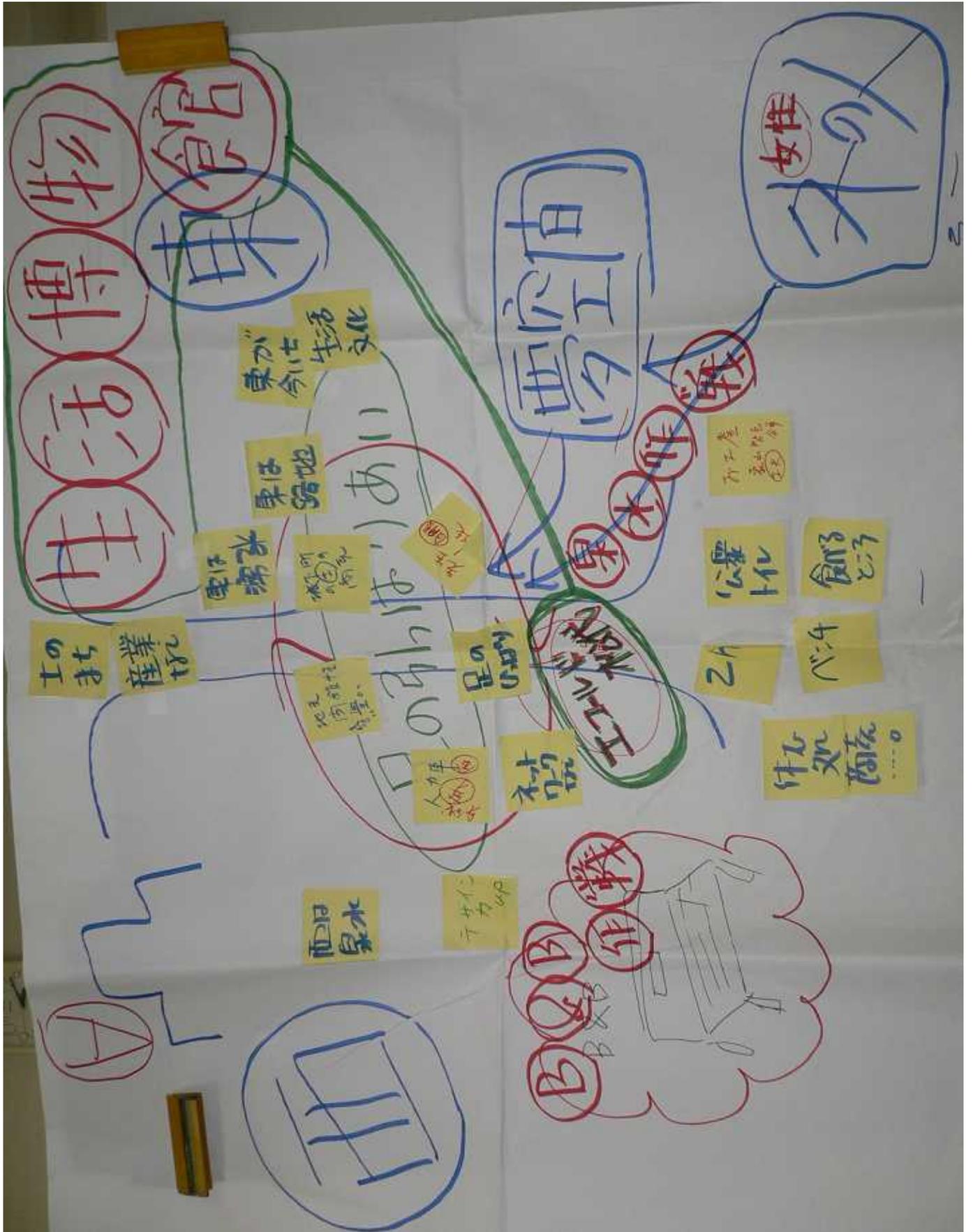
このまちは、生活博物館がほっとけばもう少しで遺跡になってしまうところを、エコー・ド・まつしろ倶楽部が活性化させて、歴史的な建物を活用したり、生活博物館にいる個人のお花やお茶などの芸事を上手に引き出したという成果、また、もっと前から夢空間さんが地道に活動していたことが、生活博物館を足の引っ張り合いによる遺跡にしなかった突破口を開けてくれた。また、自腹でお金を積み立てて人力車を買って商売をしている人たちがいたり、学校の先生が自腹でこういう場所をこども達に提供している。足の引っ張り合いの中にもそうした動きがぼつぼつと出てきている。しかし、それはネットワークにはなっていない。

この生活博物館を守りながら活性化させていく、外に拡げていかねばならない。そのためには、開いた突破口を拡げることを考えなければならない。松代の中を知っていると動けなくなるので、あまり知り過ぎていない人が働きかけるのが重要である。ここに女性と書いているのは、石川さんの2代目3代目が出るのを期待している。泉水作戦というのは、表立っていくと古いところに跳ね返される。(泉水は潜水)

松代の女性は、「女が表立って!」という気質があり、外の女性が活動の中心に潜在して登場してくれればいいと思う。チラシはここで配って、商店街はこうしたらいいと内川氏が、良い提案をしており、中で内川氏が待っているの、そこへ新しい人が飛び込んで、今の突破口をさらに開けていくことができれば、B&B 作戦や料理の開発は小さいまちであるから、物理的に難しい問題ではないということがA班の結論。



A班が議論した結果(模造紙による)



2) B班提案事項

最初の課題としては、観光客に来てもらうには回遊性がない。武家屋敷ゾーン、寺町ゾーン、町家ゾーンが分離しており、それをいかにめぐってもらえるかについて議論した。

駅前など、いつの間にか家がなくなって大きな駐車場ができています。松代をはじめ長野県は車が無くては生活ができないので、1軒で3台所有している家もあり、駐車場がいらないというわけにはいかないが、駐車場を上手に囲って、松代らしい通りにはすることはできるのではないかと議論した。

松代はコンパクトなまちなので、自転車を利用してもらうと奥の方まで見てもらえていいと思う。今の緑のレンタサイクルは、あまり綺麗ではないので、もう少しおしゃれなものにすべきである。また、貸し出しステーションも駅をはじめとして数カ所しか無く、もう少し貸し出しステーションを増やして乗り捨てOKにしたらどうかという意見があった。

長野からなど松代への交通機関が使いづらいので、何らかの対策が必要である。

まち歩きの際に、食べたり飲んだりできるお休み処が足りない。町家の方はまだあるが、武家屋敷の方はほとんどそういうものがない。また、女将さん達にも団結してもらって、お店でトイレを貸したり、荷物を預かったり、お茶を出したり、椅子を歩道に出すなどしてもらえれば、観光客とのコミュニケーションがとれれば、観光客の満足度も上がり、リピーターにつながっていくと思う。

地図に、縮尺やスケールが無くて、歩くのに距離や時間がわからず不便であるという意見があった。電話でどのくらい時間がかかるか良く問い合わせがあるが、答えられない。

松代の魅力づくりとして、空気が綺麗であること、周囲の四季折々の自然、花、山、池、水など自然が豊富であるので、そういったことを情報発信して皆さんに来ていただくことが必要。また、松代の四季折々の写真集を発行して情報発信すべきという意見もあった。

皆さんのニーズとしては、松代の情報を知りたい。視点はいろいろあって、1回目はこの視点で、2回目はこの視点でと、そのための情報が必要。松代検定があれば、勉強してまた来てみたいということもある。

観光地として欲しくない、静かなまちにしておいて欲しいという意見もあった。(15:06)



3) C班提案事項

松代は水路が多く、これを今後もっと活かしていくことが必要である。

松代は、観光も住むことも歩いてできるまちであるが、現状は歩きにくいし、観光客にはわかりづらいまちである。また、車のアクセスもわかりづらく、高速道や須坂の方に行ってしまうことがある。大本営に行く人もかなり遠くの方まで行って戻ってくることがあり、案内についてはまだまだ不十分である。



静かではあるけども、これを今後どうしていくのか。このままでいいのか、それとももう少し生活の音が感じられるようにしていくのか。

まち中を歩いて生活できたり、観光するための仕掛けや工夫をしていくことが必要である。一つは、道路のあり方について、車道を狭くして歩道を広げるべきという意見もあるが、その前に歩きづらい歩道を歩きやすくする工夫が必要ではないか。例えば、真田邸の南側の歩道は石が置いてあって歩きづらいので、石を撤去するなど。その上で、所々にベンチや休み処などの話があったが、歩いていて変化のある空間を整備する。例えば、文武学校の前の広い空間について、ボランティアのセンターもあるが、もっと広場的な空間としての演出ができるのではないか。



もう一つは、観光的な面からも、住んでいる立場からも、自慢できる食文化が今ひとつ見えてこない。食べ物もそうであるが、観光客も地元の人でももう少し楽しく食べることができるようなお食事処を、地元の商店街の皆さんの協力や行政の援助など、色々な人たちの知恵や力で実現していくために努力していく必要があるのではないか。メニューとしては新しくはないが、昔から培ってきた鯉料理の文化をよみがえらせても良いのではないか。また、地元では結構食べている「おしぼり うどん」や「長芋料理」も松代の食として取り上げて良いのではないか。

A班の話聞いていてなるほどと思ったが、こういった部分に女性の知恵を活かしていけるのではないかと思った。

歩いて暮らせて、ポイントポイントごとに休めて、楽しめるまちにしながら、全体として統一性のあるまちにしていく、みんなでまちづくりという考え方を進めていきたい。実際に歩いていると、統一性を破壊されるようなことも見られることから、住んでいる私たちだけでなく、外からまちづくりに協力してくださる人たちとも一致協力して進めていきたい。



4) 質疑応答

C班: A班の潜水作戦を是非地域の方々にやっていただいて、語呂も良いので、言葉で楽しい、みんなで喜んでやれる、そういうことが大事ではないか。まちづくりはみんながつまらないと思ったらだめである。がんばってください。

一同: 外の人って????? 潜る人!

B班: 松代には空家がいっぱいありますから。別荘など...

C班: コンパクトに松代の城下町ができていますが、周辺には農村が結構あって、その農村に侍の末裔が結構住んでいて、農村とまちが結構つながっているまちである。周辺を含めたまちづくりにどのような考え方があるか。

C班: アイデアではないが、小布施が周辺部との一体的な展開をしていませんか。

C班: 小布施には、墨田区の人たちが、グリーンツーリズムでバス 2 台くらいで行って、稲刈りや農作業をやっている。2泊3日で1万円そこそこの費用。

A班: 小布施は、休耕地をまちづくりの会社の「アラ小布施」が借りて、そこでできるだけ地の野菜を栽培して、それをさらに観光に(レストランで使うなど)使っていくことをしている。行政がやっていることと、まちづくりをやっている人とがうまくあっている。しかし、長野市くらいの行政になると、そういう面はなかなかうまくいかない。

C班: 松代は独立した方が良いのでは。

C班: 墨田の人たちはどうやってまとまっていますか。

C班: 小布施町からグリーンツーリズムとして紹介が来るので、区役所でまとめて小中学校に流して生徒を集めて行っている。

C班: 松代は友好都市はないのですか。

B班: 長野市の中の松代町なので、なかなか。

C班: 平成の大合併で、今まで付き合ってきたところがだめになっている。ただ、昔の町の単位で付き合いたいと言うことでまた盛り上がってきているところがある。墨田区は粟野町と友好都市関係にあったが、合併した市の市長が前向きでなかったが、元の町の人たちが盛り上がって市長を動かして、まずスポーツと文化の交流をもう一回やろうということになった。

A班: 松代はどこと交流しましょうか。

B班: 今までは、松井須磨子さんつながりで糸魚川、島村抱月つながりで島根県の金城町(かなぎまち = 浜田市)。

A班: あとは中野。

B班: 神楽坂が良いのでは。日置氏が潜水作戦で。

C班: そういう地域のグループが交流すると良い。行政頼りではだめ。町の有志がどんどん市長を動かすことが必要。

A班: 先日神楽坂の松井須磨子の終焉の地の芸術倶楽部の所に行ってきたが、不思議な縁で、是非そういったところを夢空間でうまく活用したい。



B 班: 今、人物によるまちおこし(パンフレット配布)をしている。江戸から明治・大正・昭和に掛けて松代で生まれ育った、社会的に活躍した人が多く、ご縁をいろんな形で結んでいきたい。今年の5月3日に、横浜開港150周年に、佐久間象山つながりで松代から大名行列ではないが、市長含めて100人程度のパレードを行う。

A 班: 横浜の開港を唱えたのが佐久間象山。野毛山公園に佐久間象山の銅像が立っている。初期は、松代藩が横浜の警護に行っている。その時の隊長が、庭が残っている川原さんで、松代で一番立派なお庭。

C 班: 私の印象として、このまちは昔からのしがらみが残っていて、中だけでは動けないのではないかと。外の人の方が大事だなと思う。このワークショップで最初に言ったのは、地元の人と外の応援隊、そして行政という3つのベクトルが必要だということ。松代を動かすには、外から揺り動かさないと。

A 班: 今日来た皆さん是非、バッチを作りますので。

B 班: ここまで来たのは、外の人のおかげである。

A 班: 一つだけ具体的な提案であるが、神楽坂の赤城神社に清心亭というのがあって、そこで松井須磨子や島村抱月、坪内逍遙などが、初めての実験的な近代演劇を稽古をしたところで、そこを現在建て替えているが、隈研吾さんの設計で21世紀のガラスの神社になるが、その文化事業を受けている。もう一回、近代演劇発祥地のを再現しようと思っているので、松代から何か、逆に赤城神社から松代に何かできたらいいと思っている。

A 班: イブセンが一時ぜんぜん上演されていなかったが、若い演劇人達が新しい視点ではじめていて、松代でやりたいという声もある。そういう時に協力していきたい。

香山: 今日は、思いもよらず大勢の方々が東京から見えていただき、松代を改めて見直していただきました。私たちは地元で取り組んではいますが、なかなか自分たちの力だけではどうにもならない部分もいっぱいあって課題は山積みです。皆様へ今日お話しいただいたことを踏まえながらがんばりますので、是非、外からも応援・潜水作戦、これをご縁にこれからも応援していただければ、また、交流させていただければと思います。今日は本当にありがとうございました。



第 章 まとめ

1. 善光寺表参道地区における路地を活かしたまち歩き観光の推進

(1) 地域の状況

【まち歩き資源の状況】

- ・日本最古の秘仏を擁する善光寺
- ・善光寺の参道をはさんで両脇にある院坊が並ぶ通りは静かな佇いで寺の町ならではの景色 / 中心線である表参道や仲見世の通りよりも、一本外側の院坊の通りその外側の西の門の通り、善光寺からかつての花街であった権堂に降りる東之門町(かつての間屋街)のあたりに残る蔵造りの家に魅力がある。
- ・善光寺の裏側は住宅街であるが、かつては料亭や旅館などがあった。
- ・権堂アーケード(但し、低迷)
- ・路地のなかでの生活感がやや少ない。
- ・小川の交差がめずらしい
- ・塀に這わせたつた植物が家毎に工夫がみられる
- ・ボランティアの動きがよく、話に慣れている

【まち歩きにあたっての問題点や課題】

- ・車で善光寺の駐車場に着いてお寺の観光をして、ちょっと境内の参道で買い物や食事するという“つくり”になってしまっている点
- ・長野駅から善光寺まで歩いて行くには途中、ワクワク感が途切れ、疲れてしまう / 中央通りが間延びしていて楽しくない / 中央通りのナゾのセンス
- ・寺社間のつながりがない
- ・道標が不足
- ・静けさのようなものが欲しい / 風の音やまちの香りがするような街並みが欲しい
- ・長崎さるくで言えば、「通さるく」から「遊さるく」への展開が課題
- ・かつてトランジットモールの検討を行ったが、...

(2) 路地を活かしたまち歩き観光の推進

【まち歩き】

- ・テーマをかかげ、中にはクイズ形式もあるなどのコース(After ZENKOUJIとして、善光寺参りとのセットで)
- ・蕎麦とか酒とか簡単な飲食が楽しめる場を中に入れ込んだコース(京都はこの手のやり口がうまい)
- ・この路地あの路地にいくつもある民話(昔話)の活用
- ・メインストリートをトランジットモール化し、これと直角方向の商店街や路地の重要性を浮き彫りにする。また、駐車場を外に移し、観光客を善光寺だけでなく街なかに拡散させる。

【案内】

- ・善光寺と周辺の路地との関係が分かる地図 / 歴史的な街の推移が分かる地図を用意。古くからの道が分かるのも楽しい(路地は歴史の道でもある) / テーマごとにマップを数種類用意する
- ・街なかの要所に現在地と、そこからの要所への方向と距離表示 / 路地の中でのポイントづくりのための看板
- ・路地に名称を
- ・路地の古い民家を活用したマチカドスポット
- ・路地大使の委嘱

【生活観光】

- ・「路地に住む人」にスポットを当てた物語を浮き出す
- ・まち案内の大事なことの6割くらいは、かつての生活文化の“口釈”

【路地の街並みの誘導】

- ・建築基準法第42条2項道路について行政側からの提案の必要 / 2項道路でも建物の改築や新築ができるような一団地扱いしなくても更新できるようなオリジナルなまちづくり
- ・高さ規制や景観規制の導入
- ・空地や低度利用地、望ましくない土地利用に対する固定資産税の上乗せ、街並みづくりに貢献し、その地区にふさわしい用途の建築物を建てた場合に、上記上乗せ税の停止と、建築物に対する固定資産税の年限を切ったの免税、設計費その他に対する補助、土地活用、建築設計、融資等の相談窓口の設置

【広域観光を捨て地域に住む人を対象としたまち歩き】

ア) 課題

- ・「善光寺を中心とした観光関係者」「街なかに住む生活者」「観光によって利益を得ている商店街」の3つの立場の人々が同じエリアに交錯していて統一性が取れてないのが大きなまちづくり上の課題
- ・地域の人は歩いていない。歩かせる工夫が重要

イ) 課題解決のために

- ・地域の人へのまちに対する関心を高める施策を実施。その一つとして地域参加型の楽しいまち歩きの実施
- ・商店街には、地域の人へのまち歩きの意味は観光であり、だから商店街にとっても重要なことであると説明する。

ウ) 施策の例

- ・例えば、善光寺とからめて歩くと極楽へ行ける御利益があるコース。小中学生は歩くと賢くなれる文殊コース。土曜日の朝、各商店に協力してもらい商店に問題が置いてあって全問正解者には何かご褒美があるコース。地元の人向けに面白い店を載せたマップ。若者には恋愛成就コースとして雰囲気のある小径や安くてすてきなお店などを載せたマップ。など
- ・街なかの水路の再生。一方向通行化などにより開渠化する。

2. 松代地区における路地を含めたまち歩き資源の発掘活用

(1) 地域の状況

【まち歩き資源の状況】

- ・文武学校を中心に武家屋敷の佇まいを残す界隈が美しい町
- ・江戸・戦国の世にタイムスリップしたような景観で、まち全体が真田博物館のよう
- ・松代に残る各屋敷を回る泉水路は、下級武士の屋敷から家老の屋敷に流れる水路で、必然的に水をきれいに使わざるをえないシステムではありますが、水をきれいに使う地域共同体の知恵として、来訪者に紹介したい松代の魅力
- ・庭自慢 / 美しい堀

【まち歩きにあたっての問題点や課題】

- ・観光案内地図が全くダメ(歩くにあたっての距離が分からない / 方位が分からない / 観光スポットしか掲載されていないためそこが街中なのか田んぼの中なのか分からない / 路地の掲載がない)
- ・駅周辺に趣がない
- ・城下町の設計で道の幅員を最低でも 3 間くらいでやったのか、路地はほとんど見かけなかった。町人地のほうは面影が僅かに残る程度で、道路も直線的なところが多いため景観の変化に乏しかった。全体に建物も人口も密度が低い都市となっているためか、界隈性がかけている。
- ・立ち寄りたい店や入ってみたい店が少ない。
- ・文武学校から象山神社、山寺常山邸に地下壕につながる歴史の小道のあたりが、もっと魅力的になると良い。小さなギャラリーや食べ物屋などの要素もほしい。

(2) 路地を含めたまち歩き資源の発掘活用

- ・このままの落ち着いた静けさを保ちつつ、でも、いまの時代にも対応する形を模索しながら、さらに魅力的な松代を目指して欲しい。
- ・長野の中心部からの交通アクセスの工夫

【まち歩き】

- ・“歩いて知る魅力”を広く伝えるためには、例えば“食”や“買い物”などの楽しさの提供も必要。それを薄っぺらな観光地化路線には決して走らずに、しかし経済的に成り立たせるという難しい挑戦に果敢に取り組んで欲しいと願う。
- ・観光客に来てもらうには回遊性がない。武家屋敷ゾーン、寺町ゾーン、町家ゾーンが分離しており、それをいかにめぐってもらえるかについての工夫が必要
- ・車よりも歩行者重視の道路づくり
- ・自転車利用の促進(密度が低いので歩行スピードであると変化量が少なくなってしまうことや、範囲も比較的広いため)。お洒落なレンタサイクルの導入(軽井沢のようなタンデムの2人乗り自転車など)
- ・和服で登場するまちの人の演出
- ・歩行者優先の交通まちづくり(車が大きな顔をして通れないまちづくり)

【案内】

- ・街なかの要所に現在地と、そこからの要所への方向と距離表示 / 路地の中でのポイントづくりのための看板
- ・B & B 作戦の実施: ベンチとトイレの充実
- ・路地大使の委嘱

【生活博物館としてのまちづくり】

- ・松代は誇り高い武家の商売であるため、「食べ物を観光客用に作らねばならないのか」など、外の人から提案されても内には関係ないという反応になってしまう。何をしようとしても、内の人たちが阻んでいるが問題である。その閉鎖性は、裏腹として、私たち外の者が素晴らしいと思う松代の江戸時代からの生活・文化 (= 生活博物館) を守り続けている気質と一体のものである。
- ・この生活博物館を守りながら活性化させていく

【路地の街並みの誘導】

- ・駐車場は上手に囲って松代らしい通りにする
- ・水路の活用

【もてなし】

- ・お店でトイレを貸したり、荷物を預かったり、お茶を出したり、椅子を歩道に出すなどしてもらえれば、観光客とのコミュニケーションがとれれば、観光客の満足度も上がり、リピーターにつながっていくと思う。

【その他の売り込み】

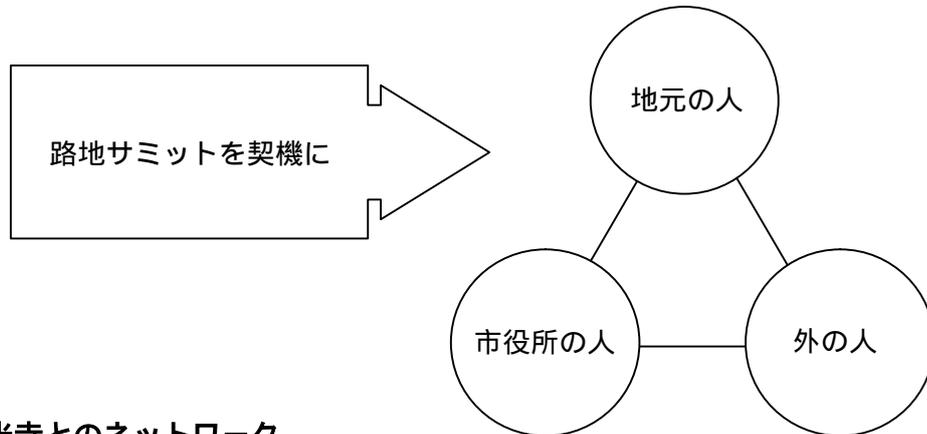
- ・松代の魅力づくりとして、空気が綺麗であること、周囲の四季折々の自然、花、山、池、水など自然が豊富であるので、そういったことを情報発信して皆さんに来ていただくことが必要。また、松代の四季折々の写真集を発行して情報発信すべきだ。
- ・松代検定

3. 今後の活動展開

(1) 善光寺表参道地区

ア) 3者ネットワーク

- ・善光寺を中心とした地区では小さなグループはたくさんあるが、大きな力になれるような動きにはなっていない。路地サミットを進めた地元の実行委員会では、全部のグループに名前を連ねていただいたため、この路地サミットで作ったネットワークをも一度メーリングリストなど、やりやすいところからでも続けていける方策を考えたい。



イ) 善光寺とのネットワーク

- ・オリンピック前までは長野市の人たちは善光寺を人が沢山来る仕掛けではあるが自分たちとはあまり関係ないという感じであったが、オリンピックの時に善光寺って、たいした寺なんだということや、もしかしたら使えるのかなという認知度が一般市民に上がったような気がする。
- ・世界遺産運動もはじめている。善光寺の40大の僧侶が、チベットの問題で動いている。芸大出身の僧侶が美術からのアプローチで善光寺に残っている仏像の検証をはじめている。善光寺の中で今回路地サミットができたように、演劇などを行うなど少しずつ開かれてきている。
- ・長野市民も、もう少し善光寺とコミットしていくことを考えるべきだと思う。

(2) 松代地区

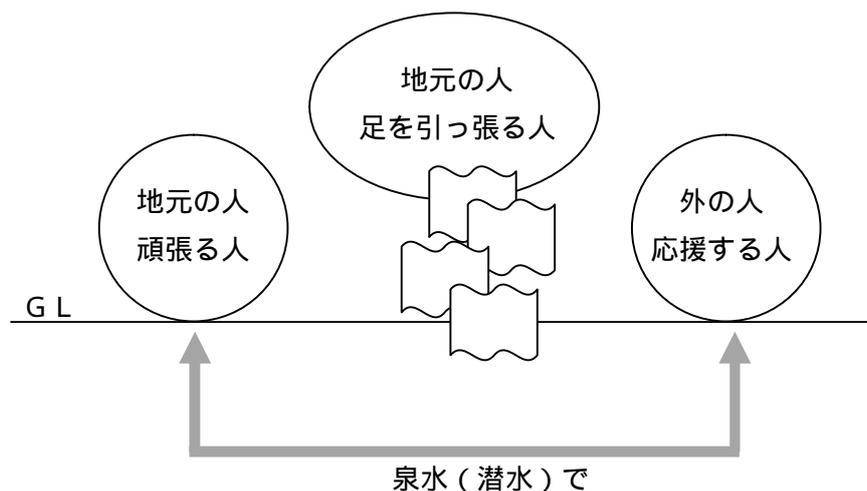
ア) 基本的な進め方

- ・エコール・ド・まつしろの取組などもあり、地域文化を大事にした地道なプログラムを主にした集客を続けることが大事なように思われる。街に品位があることが良いので、あまり観光ズレしてしまうと魅力が低下してしまう危惧がある。

イ) ネットワークは～泉水作戦（潜水作戦）～

- ・このまちは、生活博物館がほっとけばもう少しで遺跡になってしまうところを、エコール・ド・まつしろ倶楽部が活性化させて、歴史的な建物を活用し、生活博物館にいる個人のお花やお茶などの芸事を上手に引き出したという成果、また、もっと前から夢空間さんが地道に活動していたことが、生活博物館を足の引っ張り合いによる遺跡にしなかった突破口を開けてくれた。また、自腹でお金を積み立てて人力車を買って商売をしている人たちがいたり、学校の先生が自腹でこういう場所をこども達に提供している。足の引っ張り合いの中にもそうした動きがぼつぼつと出てきている。しかし、それはネットワークにはなっていない。

- ・この生活博物館を守りながら活性化させていく、外に広げていかねばならない。そのためには、開いた突破口を拡げること考えなければならない。松代の中を知っていると動けなくなるので、あまり知り過ぎていない外の人が働きかけるのが重要である。外と内とのネットワークは「泉水作戦」でいく（表立っていくと古いところに跳ね返されるからだ / 泉水は潜水の意も）



(3)活動を終えて

ア) コンサル派遣制度の不備の認識

- ・ワークショップを実施して、長野県にコンサルタント派遣に関する要望があり、かつ県内ではあまり用意されていないことがわかった。

イ) ワークショップの活用

- ・善光寺や松代で積極的に活動している市民団体であるがワークショップ形式の経験があまりない。このため、長野でワークショップ形式による市民活動の活性化は効果がある。
- ・市民活動のネットワーク化では、善光寺表参道地区、松代地区ともに、まちづくりの活性化のためには外部の人の参加が必要という認識が得られた。
- ・そのなかで、善光寺表参道地区のワークショップには松代の人が、松代のワークショップには善光寺の人がそれぞれ参加しており、今後のネットワーク化に期待が持てる。

資料編

1. 活動の経過

年月日	会議等名称	内容
平成 20 年 10 月 25 日	全国路地サミット 2008IN長野開催	善光寺表参道地区まち歩き シンポジウム
平成 20 年 10 月 26 日		松代地区まち歩き
平成 20 年 12 月 3 日	全国路地のまち連絡協議会世話人会	アフターサミット開催を確認
平成 21 年 1 月 20 日	全国路地のまち連絡協議会世話人会	アフターサミットの内容を検討
平成 21 年 1 月 21 日	全国路地のまち連絡協議会会員アンケート募集	善光寺表参道地区・松代地区に関する提案をメールで募集
平成 21 年 3 月 17 日	全国路地のまち連絡協議会世話人会	アフターサミット最終確認
平成 21 年 3 月 31 日	長野地方での参加者募集開始	インターネットにより公募
平成 21 年 4 月 4 日	アフターサミット善光寺表参道地区実施	ワークショップ 会場：長野市生涯学習センター・第3学習室
平成 21 年 4 月 5 日	アフターサミット松代地区実施	ワークショップ 会場：山寺常山邸
平成 21 年 4 月 13 日	世話人協議	報告書のたたき台協議
平成 21 年 4 月 日	報告書	

平成 21 年 4 月

長野市善光寺表参道地区及び松代地区における
全国路地サミット開催を契機としたまちづくり活動の支援
報告書

全国路地のまち連絡協議会

〒105-0002 東京都港区愛宕 1-1-9 愛宕チャンピオンビル 4 F

(NPO)日本都市計画家協会内

TEL .03-5401-3359 / FAX .03-5401-3389

(財)都市化研究公室

〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-15 ウィン青山 534 号室

TEL.03-3402-8041 / FAX.03-3470-0490